令和７年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

東温市教育委員会
東温市立西谷小学校

１　取組の目的

東温市は、三方を山に囲まれており、これまで「災害の少ない地域」と言われてきたが、南海トラフ地震では最大震度６強が予想されており、甚大な被害が想定される。また、地震以外においても大雨による土砂災害や浸水の危険性があり、特にモデル地域である西谷小学校区は、土砂災害警戒区域及び洪水浸水想定区域に立地していることから、様々な災害に対応できるよう、防災体制を整える必要がある。

そこで、本事業を契機に、学校の危機管理マニュアルや防災計画の見直しを行うとともに、西谷小学校及び隣接する西谷幼稚園を地域コミュニティの拠点とし、学校防災活動と地域防災活動の連携・協働の場を組織的・計画的に設けることで、校区地域全体の防災力を高め、学校と地域が一体となった実践的な防災活動を通じて「自助・共助」の体制を確立し、児童生徒および住民の命を守るとともに、その成果を普及させ、市全体の防災力向上を目的とする。

２　取組の内容

【拠点校　西谷小学校の取組】

⑴　5月 30 日　避難訓練（不審者想定）

不審者が侵入したことを想定し、教職員の対応や児童の避難方法等について訓練を行った。「自分の命は自分で守る」ことは、災害時と同様に繰り返し指導していく必要があり、防災・防犯について考えるよい機会となった。

⑵　6月 19 日　救急救命訓練

東温市消防署の方を招いて、保護者も一緒に救急救命訓練を実施した。

訓練では、水の事故防止として「子どもだけで川や海に近づかないこと」「川や海ではライフジャケットを着用すること」などの指導を受けたほか、ＡＥＤの使い方についても学習した。

⑶　6月 19 日　引き渡し訓練

西谷幼稚園と合同で、引き渡しカードを使った保護者への引き渡し訓練を実施し、万が一に備えて動きの確認を行った。

⑷　7月 14 日　松山地方気象台への防災遠足

松山地方気象台を見学し、気象庁の仕事内容や災害から身を守る際の心構えについて学んだ。実験や実物を交えて天気や災害について学ぶことで、災害に対する知識を深めることができた。

⑸　9月3日　防災出前授業

ＤＣＭ株式会社の防災士の方に来ていただき、防災に関する出前授業を実施した。出前授業では、防災に関するクイズで知識を深めたほか、簡易トイレの組み立てや、新聞紙でスリッパを作成するなど、災害を想定し身近な物で代用する体験を行った。

⑹　**9月 24 日　地域安全マップ作成**

学校安全アドバイザーである二神先生（愛媛大学防災情報教育センター副センター長）を招聘し、地域安全マップの作成を行った。まず、防災の視点から通学路を見る際の注意点について説明いただいた後、班に分かれて通学路を歩き、危険と感じる箇所やマップの目印となる場所を撮影し、地域安全マップに整理した。

⑺　**10 月 10 日　愛南町立福浦小学校視察**

防災教育実践委員会の委員も参加し、愛南町立福浦小学校への視察を行った。現地では両校が日頃の防災への取組について発表を行い、情報交換を行った。その後、地域の自主防災会の方による、防災散歩を実施していただくなど、地域と学校の連携や日頃の備え等について、先進的な事例を学んだ。

⑻　**10 月 15 日　手つなぎ防災ひろば**

日本赤十字社愛媛県支部及び東温市危機管理課から講師を迎え、「手つなぎ防災ひろば」を開催した。保護者や地域の自主防災組織とともに避難所開設訓練や、三角巾・バンダナを使った応急手当の実技講習を行い、災害時の対応を確認した。また、炊き出し

訓練では、東温市赤十字奉仕団の方に豚汁を作っていただき、アルファ米と合わせて試食を行った。

地域住民や保護者と訓練を行ったことで、地域とのつながりを深めるとともに、防災に対する意識を共有することができた。

⑼　<u>11 月５日　緊急地震速報訓練</u>

気象庁が実施する緊急地震速報を活用した訓練に参加した。緊急地震速報が発表されてから、強い揺れが来るまでの数秒から数十秒の短い時間で、児童は慌てずに机の下等に身を隠すなど、身を守る行動をとることができた。

⑽　<u>11 月７日　避難訓練（土砂災害想定）</u>

西谷小学校区は、土砂災害警戒区域に立地していることから、幼稚園と合同で大雨に伴う土砂災害を想定した避難訓練を実施した。訓練では、山から遠い幼稚園の講堂へ避難を行うことで、災害の種類に応じて避難先が変わることを学んだ。

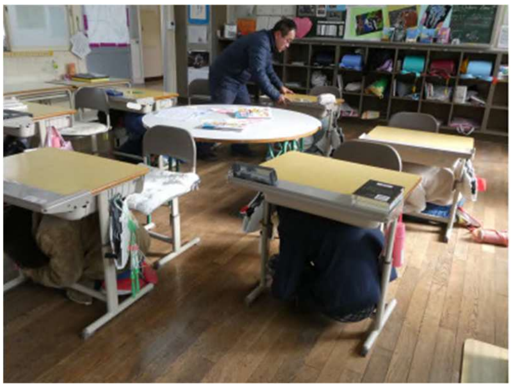
⑾　<u>12 月６日　ドローン体験</u>

西谷小学校が「コミスクえひめ」と実施している防災学習の一環として、東温高校

放送部の協力を得て、ドローン体験を実施した。ドローンは災害時に人が行けない場所の情報収集や状況把握に役立つツールとして期待されている。最新の技術に触れ、実際に操作することで、どのようにしてドローンが災害に役立てられているのかを知る機会となった。

⑿ **12 月 17 日 シェイクアウトえひめ**

えひめ防災週間にあわせて、地震発生時の安全確保行動の確認や防災意識の向上を図るため、県内一斉に実施される「シェイクアウトえひめ」に参加した。４月から防災について学習している児童たちは、戸惑うことなく自助の行動をとることができた。



⒀ **１月９日 避難・救助・消火訓練**

東温市消防署の方を招いて、避難・救助・消火訓練を実施した。避難訓練では、教室で火災が発生したことを想定し、運動場に避難を行った。また、負傷者が発生した場合も想定し、救助方法についても併せて訓練を行った。運動場へ避難後、消火器の使い方や火災が起こった際の対応を教わり、様々な災害を想定し、日頃から訓練することで、自助の精神を育んだ。

【教育委員会の取組】

⒁　**実践委員会の設置**

7月31日　第1回東温市防災教育実践委員会
出席者数　15名
内容
・学校防災教育実践モデル地域研究事業計画について
・先進地視察（愛南町立福浦小学校）について
・手つなぎ防災ひろばについて

12月19日　第2回東温市防災教育実践委員会
出席者数　14名
内容
・学校防災教育実践モデル地域研究事業実施報告
・総評

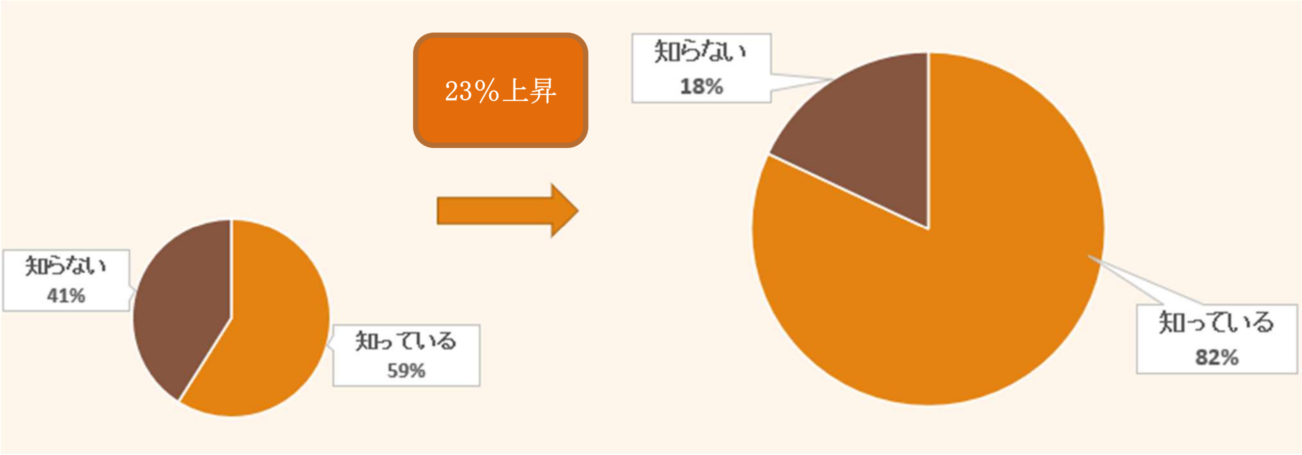
⒂　**危機管理マニュアル講習会**

学校安全アドバイザーである二神先生（愛媛大学防災情報教育センター副センター長）を招聘し、東温市の小中学校全校の危機管理マニュアル担当者を対象とした危機管理マニュアル講習会を開催した。講習会では、内子小学校の危機管理マニュアルを参考として、危機管理マニュアルに含めるべき事項や、見やすくするポイントなどについて、二神先生から解説いただき、その後モデル校の西谷小学校の危機管理マニュアルの見直しを行った。危機管理マニュアルの見直しを行うことで、マニュアルの基本事項や災害発生時の初動対応、校外活動時の対応などを再確認し、学校全体の危機管理能力の向上を図ることができた。

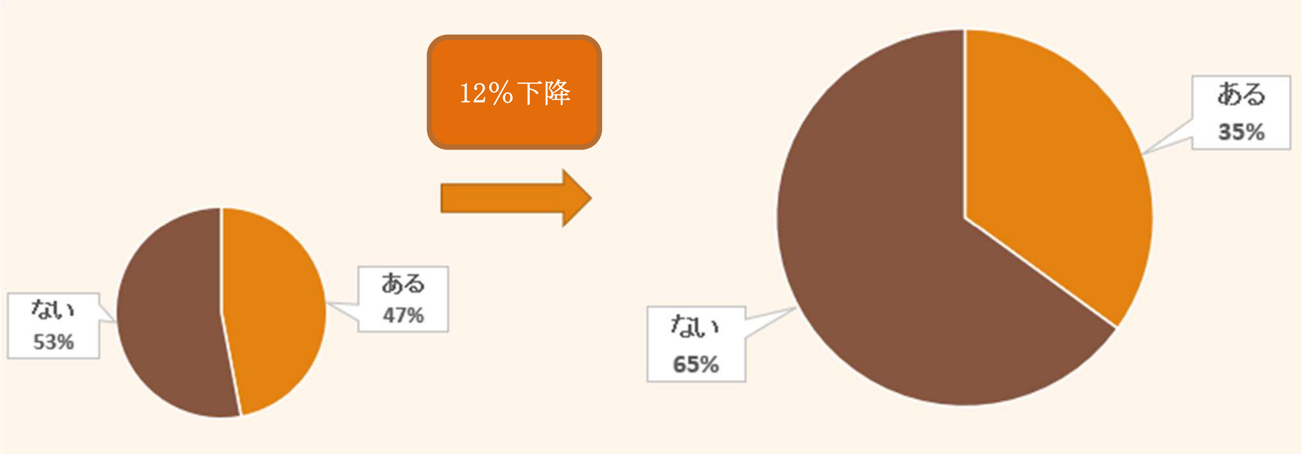
3　取組の成果

【西谷小学校児童アンケート結果】※5月、12月に実施

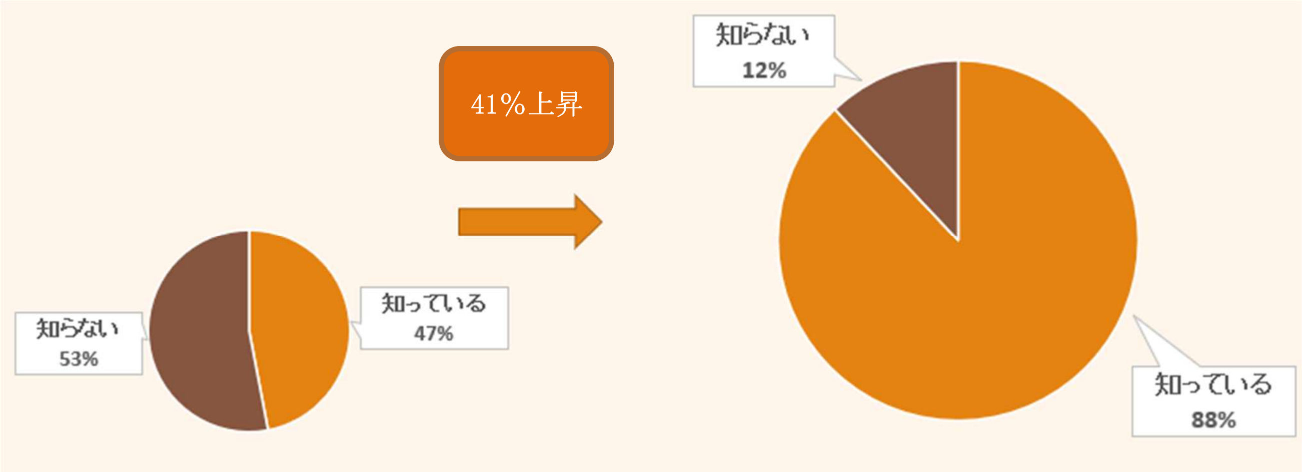
⑴　自分たちが住むところに、どんな危険があるか知っていますか？



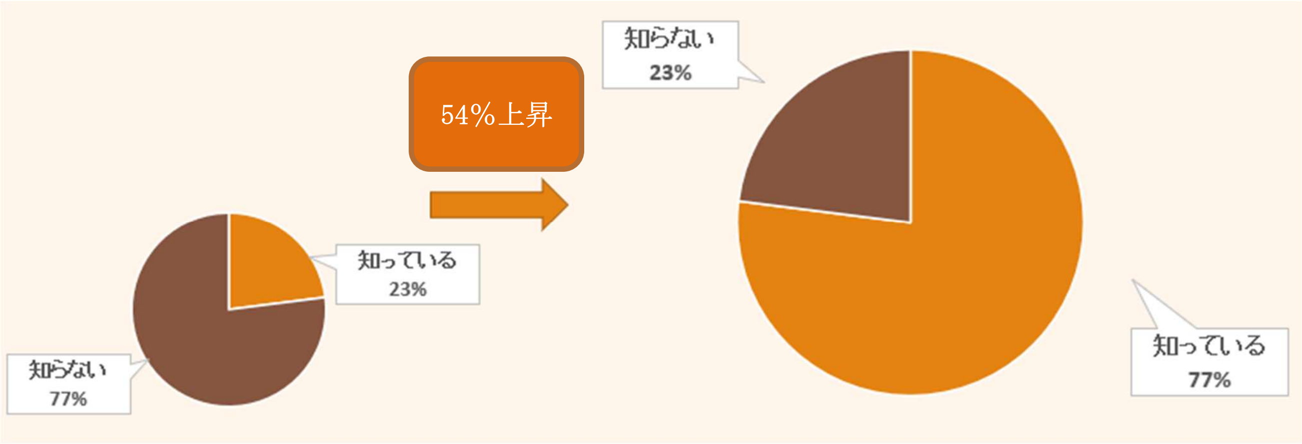
⑵　災害が起こったときどうするか、家族と話したことはありますか？



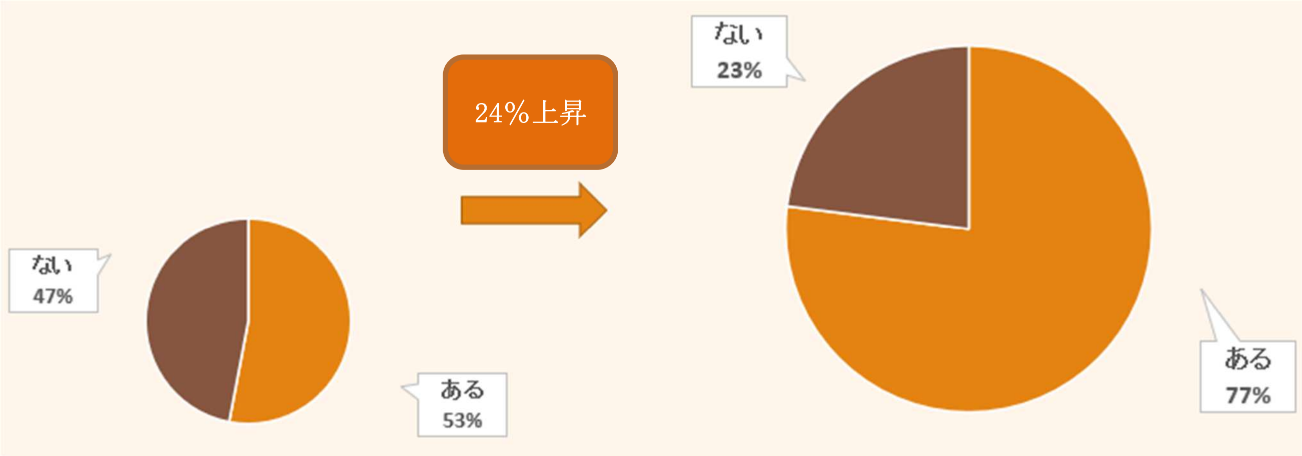
⑶　災害が起こったときに避難する場所を知っていますか？



⑷　避難場所までの道のりを知っていますか？



⑸　災害が起こったときに、自分で考えて行動する自信がありますか？



○　防災教育に取り組んだことで、防災について正しい知識や実践力を身に付け、児童の防災意識が高まり、日頃の防災活動及び災害発生時に自ら考え、主体的に行動できる児童の割合が増加した。
○　地域の方と一緒に防災活動に取り組むことで、地域住民や関係機関との連携を強化し、学校という枠を超えた地域全体の防災力向上につながった。
○　危機管理マニュアル講習会を開催したことで、マニュアルの基本事項や災害発生時の初動対応、校外活動時の対応などを再確認し、学校全体の危機管理能力の向上を図ることができた。
○　拠点校において、学校全体で防災教育に取り組むことで教職員の防災力が向上し、教職員一人一人が学校安全について考えるようになり、防災体制の強化を図ることができた。

4　今後の課題

●　本事業により学校安全体制や地域・関係機関との連携の強化は図れたものの、継続していく仕組みづくりが課題となっている。本事業を一過性のものとしないためにも、各学校に設置されている学校運営協議会で継続的に協議するなど、いつ起こるか分からない災害に備えたい。
●　アンケートの結果、「災害が起こったときどうするか、家族と話したことはありますか」について家族と話した児童の割合が減少していることが分かった。これは、児童が実践を通して学んだことを家庭・地域に伝える仕組みづくりが不足していたためと考えられる。今後は、家庭・地域に伝える仕組みを組み入れることで、地域全体の防災意識向上につながるよう、工夫していく必要がある。